



# ～野田村十府ヶ浦 海浜植物の再生を目指して～

平成27年度地域政策研究センター(地域提案型・前期)

課題名：十府ヶ浦米田地区海岸防潮堤復旧・整備に係わる海浜植物の保全  
 研究代表者：総合政策学部 准教授 島田直明  
 課題提案者：岩手県北広域振興局土木部 久保寿昌  
 キーワード：東日本大震災、復旧工事、海浜植物再生、野田村十府ヶ浦

## ▼研究の背景・目標

岩手県の北部にある野田村の十府ヶ浦は、砂浜の全長が約2kmと残存する砂浜の中では**岩手県内最大級**であり、**県北を代表する景勝地**の一つである。出現する**海浜植物も多い**砂浜である。

十府ヶ浦の南端にある**米田地区**では、東日本大震災による被災を受け、防潮堤および国道45号をかさ上げして、復旧される。その復旧工事の際、ハマナス群落などの多くの**海浜植物の生育地が消失**することになった。

工事終了後に、**工事前と同じような海浜植物を復元させる**ことが、本研究の大きな目標である。



図1 工事前の十府ヶ浦米田地区の空中写真  
 現地保全区・仮移植区を追加した

## ▼保全対策(方法および結果)

### 1. 現地**保全区**の設定(図1の緑丸)

約10×15mの保全区を2か所設定した(写真1)。モニタリング調査の結果、種の欠落もなかった。

### 2. **仮移植**(図1の黄色の範囲)

海浜植物の根茎や種子を含む表層の砂を近隣地に仮移植した(写真2)。工事終了後にもとの砂浜に移植する。もともと生育していた種が概ね確認でき、植被率60～80%と広く海浜植物に覆われていた。

### 3. 現地採取した種子からの**苗づくり**

ハマベンケイソウなどは安定した苗づくりが可能となったが、ナミキソウなど一部発芽率が高くないものも見られた。次年度も条件を変え、実験を続けている。

### 4. **系外**での根茎の移植

現地から離れたところ(岩手県立大学および盛岡農業高校)で根茎の保存を行った。プランターで保存しているものは旺盛な成長を始めた。



写真1 保全地の様子  
 (2015年5月)



写真2 仮移植地の様子  
 (2015年9月)



写真3 盛岡農業高校の生徒とともに行った種子の播種  
 (2015年6月)



写真3 大学の畑に仮移植したハマベンケイソウ  
 (2015年5月)

## ▼おわりに

1. 本研究で得られた成果をモデルとして、**山田町船越海岸**においても海浜植物の保全活動がおこなわれることになった。
2. 今後は**2017年度の工事終了後**を目指して、**苗の増産、復元方法の検討**が課題となる。
3. 活動はFacebook(十府ヶ浦・海浜植物のお引越しレポート)で報告を続けるので、そちらを確認ください。



十府ヶ浦の保全活動については、この本に記載した。